

心の復興に向かって③ 森の長城プロジェクトその一

植物生態学者・宮脇昭横浜国立大学名誉教授は、東日本大震災直後から被災地で植生の被害調査をし、津波でことごとく破壊されたコンクリート堤防や、根こそぎ或いはへ

勢ひを軽減する森の防潮堤構想を提唱しました。

◇ ◇

東日本沿岸部で、被災者の大切な思ひ出や財産であったものが大量の瓦礫と化しました。この構想は、その瓦礫(コンクリートガラ、レンガ、津波堆積土など)を活用します。

この多種多様な生態を育む「鎮守の森」をモデルとした防潮林。津波対策だけでなく森のミネラルが海に注がれることで漁業が盛んな地域の環境に寄与するとともに、多くの維持管理費も必要としません。

高橋 知明

私の勝手な想ひにも拘らず、本庁の皆様や多くの御関係の方々に応援していただきましたことに深く感謝してゐます。

◆ ◆
当財団は設立から三年目を迎へました。広く全国の企業・団体・個人の皆様からの募金を集め苗木を購入し、御要望をいただいた東北沿岸自治体に対して、直接苗木を植樹と提供することを主体事業としてゐます。

◆ ◆
これまで宮城県岩沼市や福島県南相馬市などで、約十四万本を植樹し、一万六千人以上の方々に御参加いただきましたが、この活動を継続していくために大きく三つの課題があります。①植樹地の確保、②資金の確保、③ボランティア人員の確保です。これについては、次回以降に書かせていただきます。

折られた松林の状況を目の当たりにしました。そして、自身が約八年前に宮城県・イオン多賀城店周辺に植樹した幅約三メートルの樹林帯が、津波で倒れることなく多くの車や家財などを受け止めた事実を受けて、沿岸部に将来再び襲ってくるであろう津波の

高さ五メートル程度の盛土をし、その上に根深く幹も丈夫に生長するシビ・タブ・カシ類など土地本来の広葉樹を植樹し、約十五〜二十年で「命を守る森」を創造するもので

こもれび

宮脇先生は、これまでに世界中のあらゆる現場で約四千万本の植樹をしてきました。現在は津波で流失した神社の森の再生でも、神社本庁と連携した植樹活動をおこなって

設立(現在、公益財団法人)。当時神社本庁職員だった私は、この構想を知り東北復興のための継続した活動をするべく本庁を退職し、設立より財団事務局をしてをります。



たかはし・ともあき

公益財団法人「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト事務局